

下甘田村の主なる板碑について

坂井清太郎, 国門舜量

本村の板碑の調査については玉井敬泉先生に色々と御指導していただいたので、そのうち主なるものについて簡単に紹介したいと思う。

1. 正応四年碑 福井の福井人絹工場敷地のタブの木の根本にある。もと福井地内の灰塚附近にあつたものと伝えられている。

種子はパンで円で囲まれている。紀年は正応四年(1292)四月二九日 孝子 五七日に読めるので、子がその親の追福の為、五七日に建立したものであろう。旧福野湯周辺で現在発見されているもののうち最も古い。(図1)

2. 永仁七年碑 福井の岡田信一氏邸内にあり曼陀羅寺跡とつたえる瀧に面する眺望よき台地上にあつたものを移したという。(図2)

種子はパンで円の下に蓮弁がある。紀年は永仁七年(1299)五月十八日とあり鎌倉末期のこの地方の古式板碑で、正応四年碑と並んで貴重なものである。

3. 宮の前彌陀碑 福井の神社境内には多くの板碑がある。おそらく福井地内のものがある時期にここへ集めたものであろう。本碑はその内で最も古式であると考え紹介することにした。(図3)

種子はキリクで二重円の下に蓮弁がある。パンに比してキリクは数少ないもので貴重である。

4. 本立寺前の板碑 福井の本立寺境内にある。もと福井の橋の下にあつたものといひ、この橋下を妊婦がくぐると産が軽くなるという伝説がある。

種子は上部が欠けているのでアンとおもわれるがたしかでない。アンもこの附近では数少ない種子である。(図4)

5. 岡山庄之助宅の板碑 上棚の岡山家にあるものである。

種子はパンであるが、二重の円に火焰をほどこし円の下に蓮弁を有する非常に整つたものである。(図5)

6. 灰塚所在の板碑 (1) に述べた灰塚に現存する内の小型の注目すべき板碑である。

種子はパンかともおもわれるがはつきりしない。円線の下にある蓮弁はいかにも写実的である。(図6)

古式と考えられるものは以上述べたものの外に2点、時代の新しいとおもわれる五輪塔を彫刻せる板碑が124点、合計して総数132点である。

自然石を利用したものが多く、少々加工したと思われるものも見られるが、何分雪国の関係か破損したものが多い。五輪塔を刻したものは全般に形態の細長いものが多く、時代的に新しいものになれば誠に美しいものもある。

所在地は全村一円に散在している状況であつて、特に数及び古き様式のものには福井・上棚に多く、他の部落には時代的に新しい様式のものが多い様におもわれる。

下甘田村の主なる板碑について



1. 福井所在、正応四年碑

下甘田村にはかゝる貴重な遺物が多くある関係からも、今後の研究によつて本村宗教史を幾分なりと明るみに出したいものと念じている。

編者付記、実測図は国門氏の拓影及びスケッチを基に桜井氏が製図したものである。従つて細部に於ては若干のくろいがあるかもしれない。

執筆者紹介

坂井清太郎

1. 石川県羽咋郡志賀町字大坂
3. 石川考古学研究会々員
4. 調査委員会相談役

国門舜量

1. 石川県羽咋郡志賀町字上棚
2. 石川県羽咋郡志賀町下甘田中学校教諭
3. 石川考古学研究会々員
4. 下甘田村研究員